35. ムードの習得 Mastery of Moods

幸せであろうと、不幸であろうと、「これもまた過ぎ去る」と覚えておきましょう。この鍵が、ムードの犠牲者になる代わりに、あなたを自分のムードの支配者にしてくれます。

多くの賢者たちを擁(よう)していた王が自分の富に不満を感じた。しかも近くの国、彼の国よりも力の強い国が攻撃の準備をしていた。王は死を、敗北、絶望、寄る年波を恐れていた。そこで彼は自分の賢者たちを呼んで

彼は鍵を、ふたつの扉を開くことのできる鍵を求めていた――幸福の扉と不幸の扉。彼はなにを求めていたのだろう？ 彼は自分のムードの習得を求めていた。自分のムードの主人になりたいと言っていた、彼はもはや

賢者たちは相談しあったが、どのような結論も見い出せなかった。ついに彼らはスーフィー神秘家のところに言って助言を求めた。スーフィーは自分の指から指輪を外し、それを彼らに与えて言った。「ひとつ条件がある。

王は従った。国は失われ、自分の命を救うただそれだけのために、彼は王国から逃げ出した。敵が迫っていた。彼は騎馬の音を聞くことができた……しかも馬は死んでしまい、彼は自分の足で走った……彼は窮地に

最後の瞬間になって、彼は指輪を思い出した。彼はそれを開けた。

石の裏側を見ると、そこにメッセージがあった。そこには――

これもまた過ぎ去る、とあった。

UNTIL YOU DIE, pp.192-204

Revision #4
Created 5 October 2024 08:02:18 by ゆう
Updated 25 October 2024 02:35:24 by ゆう